

京都大学天文台アーカイブプロジェクトの開始

2008年4月から8月まで、京大博物館で行なわれた企画展示「京の宇宙学」の準備段階において、花山天文台の暗室や倉庫、理学部4号館の実験室などに保管されている大量の古い写真乾板、ネガの存在を確認した(写真乾板: 約5000枚、ネガフィルム: 約7000本)。また、元花山天文台長の宮本正太郎による火星のスケッチ(約3000枚)については、ご遺族宅できちんと保管されていることがわかった。これらの資料は京都大学における天文学・宇宙物理学の黎明期にあたるものであり、歴史的な価値が高い。また、長期に渡る天体の変動現象を調べる上で、これらの古い写真が活用できる可能性がある。しかし、既に撮影から80年以上経過しているものもあり、乳剤の劣化が進み、情報が失われてしまう可能性があることがわかった(既に一部の乾板は破損や乳剤の剥離等、既に修復が難しいものがある)。そこで、これらの貴重なデータを附属天文台、宇宙物理学教室、京都大学博物館と共同でデジタル化し、インターネットを通じて公開するというプロジェクトが始まった。

2007年度は乾板やネガ、スケッチ等の数量や保管場所等の調査、撮影データ電子化のためのデータ項目定義を行ない、2008年2月には京都大学天文台アーカイブプロジェクトの開始についての記者発表を行なった。実際の乾板等のデジタル化、撮影データ等の電子化作業については2008年度から開始されている。

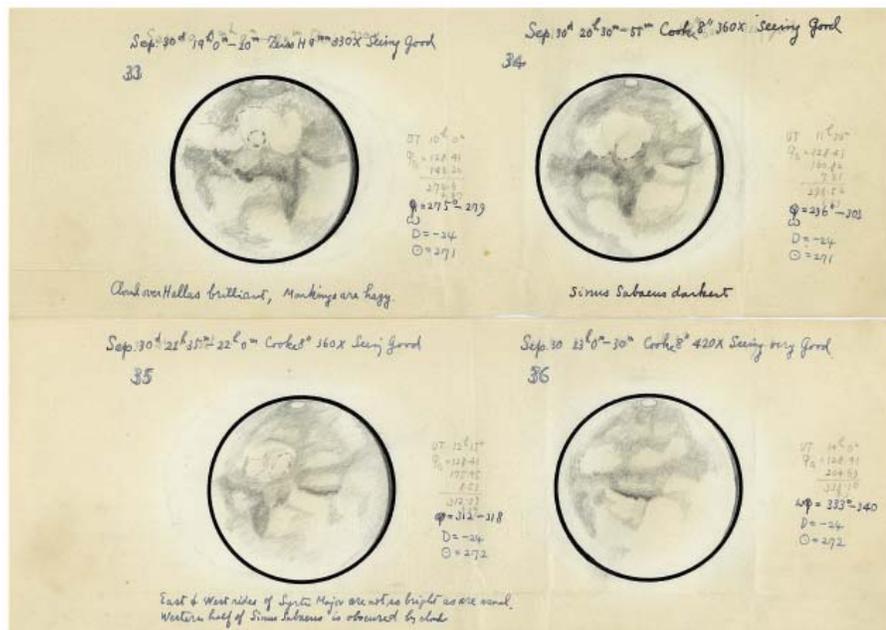


図: 宮本正太郎による火星のスケッチ (1956年)

Reference:

http://www.kyoto-u.ac.jp/notice/05_news/documents/080221_1.htm

(前原 裕之 記)